

●● 自己肯定感を高めるために ●●

平成26年度の「全国高校生生活・意識調査」から、日本の高校生の自尊心・自己肯定感の低さが際立ち、先生や家族との関係の在り方にも心配な点があることが分かりました。自己肯定感とは、自分をかけがえのない存在と考えることだけでなく、人の力になろうと思えることなど、関係の中での自己の在り方を含むものであるといわれています。学校では今、それらを育てるために、生徒同士が認め合うような人間関係作りや、一人ひとりに活躍の場を与え見守り、やり遂げさせ達成感を味わわせるような取り組みを進めています。PTAとしては、それらへの理解を深め、家庭や地域に積極的に発信し、子どもたちの自尊心・自己肯定感を学校と共に高めていくことが大切ではないでしょうか。今年度各県では色々な取り組みを行い、生徒の自尊心を高め人間関係の中で成長することを支援しています。その一部をご紹介しますので、是非皆様のご参考にして頂きたいと思っております。

1. まちなかcafeや豆の駅オープン —— 山形県立置賜農業高等学校

まちなかcafeは地元のNPO法人と連携して、中心市街地に元気を取り戻そうと開店したチャレンジショップです。30種類の豆を陳列して、県内外の方々に豆の町をPRします。食料環境科の「チームアグリクシオン」は、地元川西町の「豆の町」をアピールした農業活性化の取り組みと連携して、市街地に3店目の豆の駅をスタートさせました。地域との積極的な連携が高く評価されています。地域を愛し、地域の未来に向けて取り組むことは、自分自身を愛すること、自尊心や自己肯定感を高めることにつながります。



2. 継続的な被災地支援 —— 秋田県立明德館高等学校

東北地区の被災地の様子を理解すべく現地の方を招いた講演会を行ったり、PTA主催による現地研修会を実施したりしています。さらに本年度は、文化祭において生徒に向け福島県南相馬・双葉地区の被災高校の現状を展示し広報に努めるとともに支援を呼びかけました。PTA主催バザーの売り上げは、勝田健斗生徒会長から全国高等学校PTA連合会会長でもある佐野元彦秋田県高等学校PTA連合会会長へ直接手渡しました。大切なものを継続していく姿勢が評価され、生徒の自信となっています。



3. 心の健康に大切なことの研修を重ねて —— 青森県高P連健全育成委員会

県の健全育成研修会を「高校生の心の健康をどう支えていくか」のテーマで開催し、保護者など157名が参加しました。保護者の体験から、「うつになった子を無理に励ますことはプレッシャーになる。できる限り普段の生活に近づけ、少しでも心を開けるようにした」との話や、大学院准教授の「安心感、安全感、基地としての母親イメージ、よりどころを心の中に保てるかということが、子どもたちに大切」という講話から、心の健康をささえる親の存在が自尊心や自己肯定感を育むことを感じました。



4. 地域の子供たちとの交流活動 —— 岩手県立千厩高等学校

地域の子供達に交流活動を通して食や農に興味をもってもらうために、幼稚園児を学校の農場に招いて、サツマイモ苗の定植と収穫体験を行い、収穫後は焼き芋を食べ、ダンスを踊り、より交流を深めました。子ども達に教えることで農業の学習をさらに深め、コミュニケーションのとり方を学びます。行事後、高校生の表情を見ると、自信に満ちあふれた充実した顔をしており、成長を感じさせます。この取り組みに対して地域から「小さな親切運動実行賞」をいただき、高く評価されました。



5. 芝桜で人のために —— 宮城県築館高等学校

生徒、職員の全員がボランティア部に所属し、活動の一環として平成25年度より校舎周辺に芝桜を植栽し地域の方々に喜んでもらい、さらに株分けして地域に広げることで栗原市を芝桜の名所にしようと取り組んでいます。生徒自らが人のために何ができるかを考え、「人のためプロジェクト委員会」を立ち上げてから今年で3年目になり、芝桜の植栽は先輩から後輩に受け継がれています。地域の方々に本校の活動が認められることで、自身の活動による生徒たちの自己肯定感が高まっていると感じます。



6. 地域から信頼される学校づくりの推進 —— 福島県立会津農林高等学校

学科の特徴や地域との関わりを重視した開かれた学校づくりを、小菊かぼちゃのマドレーヌを道の駅で販売することや、幼稚園との交流学习に生徒が先生役になったり、小学校の給食に生徒の栽培した伝統野菜を提供したり、特別支援学校生徒の造園実習を行うことなどで進めています。また、担い手不足で停滞していた伝統芸能の「早乙女踊り」を復活し継承して、各地で披露し地域の方々に喜ばれました。生徒たちは、地域に開かれた自分たちの活動に自信を持ち、どんどん成長しています。



平成27年度 東北地区PTA連合会

健全育成委員会 活動報告



挨拶を交わして清々しい登校風景 (山形県立荒砥高等学校)

本報告書について

全国高等学校PTA連合会健全育成委員会が、平成15年度から3カ年にわたり全国約1万人の保護者・生徒の意識調査を実施し、子どもたちの人間関係の希薄化の傾向が明らかになりました。また平成26年度には、全国約6千名の生徒を対象とした生活・意識調査を実施したところ、高校生の自尊心・自己肯定感の低さとこれがもたらす意欲の低下などの問題が浮かび上がってきています。このような状況を踏まえ、東北地区高等学校PTA連合会健全育成委員会では、「人間関係の基本はきちんとしたあいさつから」との趣旨の下、本年度も登校時一声運動・マナーアップ運動を柱として、各県それぞれの取り組みを紹介しております。またその上で、人間関係や自己肯定感といった抽象的で難しい問題にも取り組みました。理屈だけでなく、いかに具体的な変化に結びつけていくかが問われるところですが、各県がそれぞれの角度から取り組んでおります。その結果、各校の生徒達が達成感を味わい、自分たちの姿勢を誇りとし、地域の中によい人間関係を築いていることをお楽しみ頂ければ幸いです。



健全育成委員会の役割を考える



思いもかけず平成27年度の東北高P連健全育成委員長を仰せつかりましたが、関係者の皆様のご協力のお蔭をもちまして、無事その任を終えることができますことを心より御礼申し上げます。本報告書は、「登校時一声運動・マナーアップ運動」を中心にまとめさせて頂きましたが、加えまして、諸報告でも明らかになっている、生徒の自己肯定感の低さへの対応についても、何か手掛かりになるものを見て見ました。各校の色々な角度からの取り組みを是非参考にして頂き、生徒たちが自信を持って人間関係を築き、地域に生きることができるようになっていただければと思います。健全育成委員会の課題が多くある中で、PTA同士の密接な連携により、子どもたちを支えていくことができればと念願する次第です。

東北地区高P連健全育成委員長 田中清美

東北地区高等学校PTA連合会 健全育成委員会

委員長	福島県	田中清美	(福島県高等学校PTA連合会会長・福島県立橋高等学校)
副委員長	福島県	吉田博之	(福島県立葵高等学校)
副委員長	山形県	二村強	(山形県立小国高等学校)
委員	秋田県	佐藤義一	(秋田県立角館高等学校)
委員	青森県	石田洋	(青森県立弘前南高等学校)
委員	岩手県	千葉弘之	(岩手県立千厩高等学校)
委員	宮城県	高橋誠一	(宮城県築館高等学校)

編集・発行

平成27年度 東北地区
高P連健全育成委員会
事務局:
福島県高等学校PTA連合会
〒960-8153
福島市黒岩字田部屋53-5
TEL 024-545-3368
FAX 024-545-3402
E-mail:
ptarengoukai@h6.dion.ne.jp

登校時一声運動・マナーアップ運動の様子…成果と課題



(山形県立南陽高等学校での指導の様子)

服装もしっかりとして、きちんとした生徒が多かった。お揃いのジャンパーも運動を盛り上げた。



(宮城県築館高等学校での指導の様子)

保護者の協力が積極的で非常に助かった。期間の中盤から生徒の態度に改善が見られた。お揃いのジャンパーで登校指導し好評だった。



(秋田県立角館高等学校での指導の様子)

朝の忙しい時間帯、保護者の方の協力に感謝。教員と地域の方々の協力で毎日行っており効果が上がっていることを体感できた。



(青森県立弘前南高等学校での指導の様子)

自らすすんで挨拶をする生徒が増えた。素直な生徒が多く、さわやかな挨拶を交わせた。イヤホン装着の生徒が昨年と比べ目立たなくなった。



(岩手県立千厩高等学校での指導の様子)

人と向き合い交わす挨拶こそが求められるコミュニケーションであることを実感した。



(福島県立喜多方東高等学校での指導の様子)

明るいあいさつで朝から元気になった。自転車登校のマナーが身についている。

成果…地域での連携が進むところも

- 少子化への対応の一環として各県とも学校の統廃合が進み学校数が減少傾向にあるなかで、県によっては登校時一声運動・マナーアップ運動へ参加する学校がわずかながらでも増加している。生徒の様子を知ることができる貴重な機会として、その有効性について理解が進みつつある。
- 子どもたちに望ましい対人関係を形成し社会性を涵養する絶好の機会として、同地区の他高校と、また小・中学校や自治体とも連携して、効果的な活動に取り組む地域があらわれた。

課題…参加しやすい時間、期間を

- 保護者の方の出勤時間帯と重なり参加できる方が限られるため、参加したくてもできない保護者も多い。
- 実施期間中は有効なのだが、行事や生徒の活動などの点からなかなか期間を拡大することもできない。効果が運動期間中に限定されてしまうという悩みもある。

平成27年度「登校時一声運動・マナーアップ運動」取り組み状況

1. 実施校

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H27	H26	H25
実施報告校数	67	64	65	60	47	88	391	367	399
対象学校数	87	67	69	81	50	98	452	457	456
実施報告率	77.0%	95.5%	94.2%	74.1%	94.0%	89.8%	86.5%	80.3%	88.0%

2. 実施日数

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H27	H26	H25
1～2日	33	37	19	27	16	51	183	157	188
3～4日	22	14	28	16	19	23	122	120	119
5～6日	7	8	10	6	6	9	46	40	49
通年・その他	5	5	8	7	6	5	36	46	40

3. 主な実施場所

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H27	H26	H25
校門・昇降口周辺	67	54	55	48	44	81	349	322	310
校舎内・校地内	12	12	12	8	13	13	70	72	58
通学路・学校周辺	17	24	19	15	26	23	124	117	134
駅・地域等	12	11	14	14	18	20	89	73	79
その他	0	1	1	2	1	1	6	7	6

4. 実施時間帯

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H27	H26	H25
始業前15～30分	63	54	53	45	37	70	322	296	305
始業前後60分程度	3	6	7	7	7	15	45	37	36
下校時にも実施	6	0	6	4	10	5	31	25	41
その他	0	4	7	5	3	6	25	29	21

5. 参加人数等 (PTA)

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H27	H26	H25
延べ人数	1,407	1,088	1,119	778	874	1,497	6,763	7,211	6,275
1日あたりの人数	7	6.5	7.2	8	6.9	6.4	7	10.9	168.6

6. その他の協力者の参加 (複数回答可)

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	H27	H26	H25
生徒・生徒会・教職員	39	41	32	34	35	30	211	232	3,214
教職員のみ	37	31	28	32	15	52	195	181	2,508
地域・近隣高校・関係機関	0	7	10	10	2	3	32	28	63
その他	0	0	7	1	1	0	9	6	50
単独実施 (PTAのみ)	0	0	0	6	1	3	10	8	3

7. 生徒の反応及び担当者の感想 (複数回答可) 東北六県の合計

